

日赤にいがたNEWS

N I S S E K I N I I G A T A

第7号

令和6年7月

発行



CONTENTS

新社屋が竣工して1年 4つの理念に基づく活動

広がる赤十字の輪 地域の赤十字活動



日本赤十字社の活動はボランティアのみなさまによって支えられています。
赤十字事業に興味がある・ボランティアに参加したいという方はぜひお問合せください。



日本赤十字社 新潟県支部
Japanese Red Cross Society

〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町1-3-12

TEL 025-231-3121 FAX 025-231-3122

E-mail humanity@niigata.jrc.or.jp <https://www.jrc.or.jp/chapter/niigata/>





新社屋が竣工して1年。

「いのちをまもる みらいにつなぐ」というモットーのもと、
新社屋の「4つの理念」に基づいた活動をおこないました。



備える

- 災害救護活動の拠点となる
- 防災を体験しながら学んでもらう

防災セミナーの
お申し込み



赤十字防災セミナー



能登半島地震救護活動



協働く

- 効率的、機能的な業務
- ボランティアが活動し、交流する

各種講習会
のお申し込み



地域ふれあいまつり



各種会議・研修会の開催



伝える

- 赤十字を
知ってもらおう

見学研修会
のお申し込み



新社屋見学研修会



育む

- 未来を担う青少年を育む



各学校の受入れ



広がる赤十字の輪 地域の赤十字活動

コロナ禍も明け、地域の赤十字活動が以前のように行われるようになってきました。
地元でのボランティア活動やイベントでの安全管理活動、義援金募集など
県内様々な場所で赤十字の輪が広がっています。

観桜会での救護活動



新潟県赤十字安全奉仕団 上越市分団のみなさんは、「高田城址公園観桜会」にて、救護活動を行っています。訪れた方が安心してお花見ができるように、花見会場の見回りや、けがをしたり、具合が悪くなった方への手当てを行っています。

リーダーシップ・トレーニングセンター



青少年赤十字加盟校として赤十字活動に協力していただいている学校を対象に、毎年学校の先生たちとともに「リーダーシップ・トレーニング・センター」(以下、トレセン)を実施しています。児童・生徒のリーダーシップを育てることを目標としており、令和5年度は県内5地区7会場で開催。カヌー体験や防災グッズづくりなどを行いました。最初は緊張した面持ちで集まった子どもたちですが、活動を通して仲が深まり、協力して取り組む姿や積極的に発言する姿が見られました。

青少年赤十字加盟校と赤十字奉仕団による義援金募集活動



令和6年能登半島地震災害を受け、胎内市立中条中学校の生徒のみなさんと胎内市赤十字奉仕団のみなさんが義援金募集活動を実施しました。あいにくの天気でしたが、生徒のみなさん、赤十字奉仕団のみなさんが一生懸命声を出して活動してくださいました。「被災地のために何かできることを」、そうした気持ちを一つにした活動は被災された方々だけでなく、赤十字活動全体の励みになります。

黄色い交通安全帽の交付



新1年生を交通事故から守り、ドライバーに交通事故防止を啓発するために、日本赤十字社新潟県支部、県及び市町村は「黄色い交通安全帽」を交付しています。昭和47年から継続するこの事業は、現在では、日赤・県・市町村の3者のほか協賛6団体※のご支援をいただき行われています。令和6年度は計16,070個を交付しました。これからの未来を担う子どもたちの交通事故防止及び交通安全意識を育むためにも事業を継続してまいります。

※協賛6団体(敬称略、順不同)
●公益社団法人 新潟県トラック協会
●公益財団法人 新潟県交通安全協会
●一般社団法人 新潟県安全運転管理者協会
●一般社団法人 新潟県指定自動車教習所協会
●一般財団法人 新潟県自動車練習所
●新潟県日赤有功会

皆さまのご寄付が唯一の活動財源です。

日本赤十字社は公平で中立な活動が求められるため、国や県から補助を受けることなく県民の皆さまからのご寄付のみで活動を展開しております。今後もいのちを救うための赤十字活動が行えるよう、皆さまからの温かいご支援・ご協力をよろしくお願いたします。



様々なかたちで新潟県支部の活動を応援して下さる
法人の皆さまにお話を伺いました。



株式会社 新潟日報社 様

事業内容：日刊新聞の製作および発行、ニュースサイトの管理・運営



代表取締役社長
佐藤 明 様

1月1日に北陸地方を襲った能登半島地震は、本県はじめ各地に大きな被害をもたらしました。国内で災害が頻発する中「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命の下で取り組む日本赤十字

社の活動は、被災者の大きな支えとなっています。

新潟日報社は、日々の紙面を通じ被災者の声を読者に伝え続ける一方、過去の災害では読者の方から義援金を寄せていただき、県支部を通じて被災者に届ける活動も行ってきました。また評議員、「日赤有功会」の一人として、微力ながら県支部の活動を後押しさせていただいています。

日本赤十字社と報道機関という組織の違いはありますが、目指す方向は同じ。これからも困難に苦しみ人々の心に寄り添い続けていきたいと考えています。



新潟中央ヤクルト販売
株式会社 様

事業内容：乳製品乳酸菌飲料・清涼飲料水・食品・化粧品等の卸小売業



代表取締役社長
鈴木 浩 様

当社は「すべてはお客さまの笑顔と健康のために」を企業理念としています。日本赤十字社がすべての人々の命と安全を守ることを使命とされていることと、広義では同じ志をもっているのではないかと考えています。当社は昨年、日赤新潟県支部と「地域貢献パートナーシップ」を締結させていただき、お互いの想いに賛同し、連携をはかっています。また、当社では心と体の健康の大切さを伝える「健康教室」や「出前授業」など地域に根付いた活動を社会貢献の一環として行っています。微力ではありま

すが、赤十字の活動への寄与を含め、従業員が一丸となって社会全体の安全と健康を守る活動、その志をたくさんの方に知っていただけるよう活動していきます。



プレゼント
企画

※画像はイメージです



株式会社加島屋様ご提供 ビン詰セット(さけ茶漬×1、切干漬×1) 3名様

ご希望の方は①お名前、②郵便番号・ご住所、③お電話番号、④本誌を手にされた場所・きっかけを明記のうえ郵送・FAX・WEBのいずれかでご応募ください。

当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

※要冷蔵のため商品は株式会社加島屋様からの直送となります

- 郵便/〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町1-3-12 プレゼント係
- FAX/025-231-3122
- WEB/2次元コードからご応募ください >>>>>>>>>>>>

※いただいた個人情報はプレゼントの発送のみに使用させていただきます



株式会社加島屋
〒950-8612 新潟市中央区東堀前通8番町1367番地
TEL025-229-0105 FAX025-229-5873
代表取締役 加島 長八 業務内容 海産物加工、製造、販売

応募締め切り※必着
令和6年8月30日(金)